

第62回中国高等学校バスケットボール選手権大会

日時	2018年5月13日	12:30	女子	決勝													
会場名	ジップアリーナ岡山		Mコート	第3試合													
● 広島皆実 64 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td rowspan="4" style="font-size: 4em;">}</td><td>12</td><td>-</td><td>25</td></tr> <tr><td>19</td><td>-</td><td>13</td></tr> <tr><td>15</td><td>-</td><td>20</td></tr> <tr><td>18</td><td>-</td><td>18</td></tr> </table> 76 徳山商工 ○					}	12	-	25	19	-	13	15	-	20	18	-	18
}	12	-	25														
	19	-	13														
	15	-	20														
	18	-	18														

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
安藤 帆南 (C) *	4	0					山本 楓子 *	4	16	1	4	5	3
京免 七海 *	5	5	1		2	2	磯崎 華	5	0				1
山野 沙彩 *	6	18		7	4	5	廣政 桃菜	6	-				
下瀬 彩夏 *	7	7	1	2		4	幕 凧沙	7	-				
中本 葉月 *	8	13		4	5	4	友澤 真美	8	-				
松田 亜紀	9	-					三浦 ゆあん *	9	32	7	4	3	2
林 桃子	10	-					加藤 瀬奈	10	-				
重枝 優香	11	-					明石 真歩 *	11	8		3	2	4
得田 歩菜	12	14	2	4		1	藤井 きらり *	12	10	2	2		3
澤崎 唯奈	13	-					岩木 梨央	13	-				
小林 瑞優	14	-					谷井 鈴	14	-				
村井 陽	15	-					藤嶋 美香	15	-				
大塚 夏奈	16	-					木村 麻衣	16	0				
小西 里奈	17	2		1			本田 満里奈 (C) *	17	10		3	4	1
廣田 萌々	18	5	1	1		1	池永 琉華	18	-				
合計		64	5	19	11	17	合計		76	10	16	14	14

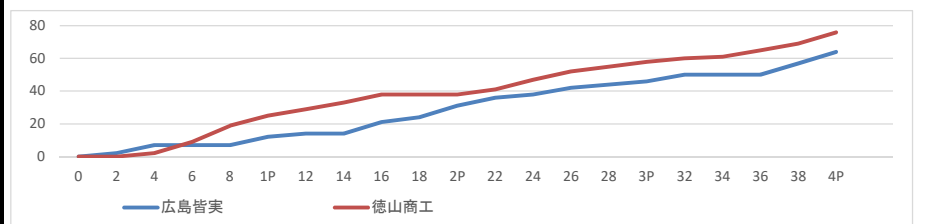
戦評

1P 徳山商工はゾーンディフェンス、広島皆実はマンツーマンでゲームを開始する。両チームとも立ち上がりはシュートが入らず重い展開であった。広島皆実⑧を軸にオフェンスをするが、徳山商工の⑨が3ポイントを立て続けに決め12対9となったところでたまたまタイムアウト。タイムアウト後、徳山商工が2-1-2のオールコートゾーンプレスをしかけると広島皆実ミスが続き、25-12で第1ピリオド終了。

2P 序盤は1Pの流れのまま徳山商工が有利にゲームを進める。⑪のポストでのターンシュートや⑨のカッティングプレイで順調に得点を重ねていく。広島皆実が再三シュートを放つがなかなか決まらず我慢の展開に。次第に徳山商工のファウルがかさみ、広島皆実のフリースローが増えてくる。広島皆実⑧→⑥のハイロープレイに⑦が合わせ3ポイントシュートを決め前半を徳山商工38-31広島皆実で折り返す。

3P 広島皆実⑫がゾーンを崩してから3ポイントを決め率先のいいスタートを切る。⑥の1対1やリバウンドからのシュート、⑦の速攻から得点を重ねていく。徳山商工は⑫、⑨、④の3ポイントが決まり広島皆実を離していく。⑦がドライブからバスケットカウントをもぎ取り、フリースローを確実に決め徳山商工58-46広島皆実として3Pを終える。

4P 広島皆実⑧は2-3ゾーンでディフェンスを始める。⑥→⑧へのハイロープレイや速攻から得点を重ねていくが、プレイの要の⑥が5ファウルで退場してしまう。その後、広島皆実⑧は積極的に3ポイントを打ち、さらにリバウンドシュート試みるがリバウンドに弾かれ得点には結びつかない。一方、徳山商工は⑪が落ち着いてゲームコントロールし⑪や④がシュートを決めていき、76-64とし初優勝を飾った。



第62回中国高等学校バスケットボール選手権大会

日時	2018年5月13日	14:00	男子	決勝																
会場名	ジップアリーナ岡山		Mコート	第4試合																
● 広島皆実 58 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td rowspan="5" style="font-size: 4em;">}</td><td>19</td><td>-</td><td>19</td></tr> <tr><td>10</td><td>-</td><td>14</td></tr> <tr><td>17</td><td>-</td><td>22</td></tr> <tr><td>12</td><td>-</td><td>22</td></tr> <tr><td>12</td><td>-</td><td>22</td></tr> </table> 77 豊浦 ○					}	19	-	19	10	-	14	17	-	22	12	-	22	12	-	22
}	19	-	19																	
	10	-	14																	
	17	-	22																	
	12	-	22																	
	12	-	22																	

選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル	選手名	背番号	得点	3ポイント	2ポイント	フリースロー	ファウル
山口 由稀 (C) *	4	17	2	5	1	1	喜志永 修斗 (C) *	4	34	3	12	1	1
石原 奏志 *	5	13	3	1	2	3	藤井 翔太郎 *	5	8		3	2	1
西村 浩志郎	6	-					小野田 隼	6	-				
繁富 寛太	7	-					佐々木 一成	7	-				
直野 圭吾	8	-					坂口 竜也 *	8	10		4	2	1
西村 聡一郎	9	-					近藤 優斗 *	9	10		5		3
三谷 桂司朗 *	10	25	2	7	5	1	梅田 陽向 *	10	5		2	1	1
江尻 翔吾	11	-					砥上 直也	11	6		3		1
阿部 優月 *	12	2		1		1	下田 英佑	12	-				
國安 駿平	13	0					福谷 直紀	13	0				
升田 慎也	14	0					江藤 晃	14	-				
林 龍之介	15	0					濱田 真魂	15	1			1	1
東 蒼一郎 *	16	0				4	小西 真樹	16	3	1			
一宮 駿	17	1			1		増岡 克哉	17	0				
大福谷 和馬	18	-					小田 恒志	18	-				
合計		58	7	14	9	10	合計		77	4	29	7	9

戦評

1P 皆実マンツーマン、豊浦ゾーンでスタート。豊浦は厳しいディフェンスから④を中心とした速い展開、皆実は⑩のポストにボールを集めてのオフェンスで攻撃を組み立てる。残り4分あたりで、皆実は④⑩の3ポイントでなどで主導権を握りかけるが、豊浦は⑤のドライブやジャンプシュート対抗し皆実19-19豊浦となったところで1P終了。

2P 皆実はディフェンスをオールコートにし、ボールにプレッシャーをかけるが、豊浦は冷静に対応し、残り6分で皆実22-26豊浦と4点リードに成功する。その後も、一進一退の展開が続き、残り3分で皆実27-28豊浦と1点差となったところで豊浦がタイムアウト。お互い主導権を握ることができず皆実29-33豊浦で前半終了。

3P 皆実マンツーマン、豊浦ゾーンと前半と同じディフェンスでスタート。豊浦は④を起点としたオフェンスで得点を重ねる。残り6分で皆実32-39豊浦と7点差が付いたところで皆実がタイムアウト。皆実は⑤⑩の3ポイントで得点するが、豊浦はブロックショットやバスケットからの速攻で徐々にペースを掴み、皆実46-55豊浦と9点差となったところで3P終了。

4P このピリオドでも豊浦に傾きかけた流れは変わらず、残り8分皆実48-59豊浦となったところで皆実がタイムアウト。しかし、豊浦に傾いたペースは止められず、残り6分皆実48-64豊浦と16点差となったところで再び皆実がタイムアウト。その後も、豊浦はディフェンスの手を緩めず、バスケットからの得点を重ね、一時皆実72-48豊浦と最大24点差となるが、皆実も最後まであきらめず得点するが皆実58-77豊浦と点差を縮めたところで試合終了。豊浦が2年ぶり4回目の優勝を飾った。

